Junno Design合同会社

Kyushu Bureau of Economy, Trade and Industry
2019.07
ヒアリング

持続可能なものづくりで人々の生活と環境を豊かに

企業概要

社名：Junno Design合同会社
創業者：Anton Noeffke、Junn Chee
所在地：〒814-0113
福岡県福岡市城南区田島4-8-20
ガーデンハイツ田島101
TEL：092-836-5375
URL：https://www.junnodesign.com/
設立：2016年12月
業務内容：家具・カッティングボード(まな板)、
ワックス・スポンジ付きアプリケータ等
の設計・製造・販売

Junno Design合同会社は、家具・カッティングボード（まな板）や、それらを手入れするためのワックス・スポンジ付きアプリケータ等を設計・製造する会社です。

事業を始めたきっかけは、東南アジアの熱帯雨林が年々減少する現実を目の当たりにしたことです。東南アジアの高級木材を使用した家屋が、居住者がいなくなり使われなくなってしまう状況から、その木材を再生材として加工し、高機能でデザイン性のある家具やインテリア製品を作ることで、森林資源の保全に貢献できるのではと考えました。

来日する以前は、マレーシアで家具・カッティングボードの製造・販売を行っていました。材料に使用している現地の高級ハードウッド再生材は、木材の密度が高く頑丈であることが特徴です。現在デザインは日本で行っていますが、製造は引き続きマレーシアの自社工場で行っています。

手入れ用ワックスは、日本製の蜜蝋を原料としているため、石油系原料等を使わない人体と環境に優しい製品です。欧米の食品衛生基準は、厳格であることで知られていますが、それを満たす安全性を誇っています。そのため、食材が触れるカッティングボードや、誤って子供が口に含んでしまう可能性がある木製おもちゃのお手入れにも、安心してお使いいただけます。

福岡でビジネスをスタート

日本製品の性能や品質は、世界から高い評価を得ており、私達も日本の技術力の素晴らしさに憧れて日本にやってきました。現在、弊社の製品は、インターネット通販サイトや小売業者等を通じて国内外に販売しています。日本に移住して日本企業として製造・販売を始めたことで、海外からの信頼がより強くなったように感じます。

日本でビジネスを始めるにあたって、拠点をどの都市におくか悩みました。日本は物流が整っているため、製造から販売まですべてを大都市やその周辺都市で行う必要はありません。そこで、インターネット等で情報収集をする中で、福岡がスタートアップに適した都市であることを知りました。また、ビジネスとプライベートの両立が望めることから、福岡を起業する地として選びました。九州・福岡は、美味しい食べ物やお酒が豊富で、自然と住環境が近く、人柄も良いため、とても心地よく生活できています。

パートナーの支えと協力

日本でビジネスを行うにあたって、在留資格の取得・更新において不便さを感じています。在留資格は基本的に1年しか与えられませんが、銀行に融資を申し込む際には、3年間のビジネスプランの作成を求められます。稀に3年や5年の在留資格を取得できるケースもありますが、大抵の場合は１年ごとに更新していくことになります。このように、あと何年日本に滞在できるか分からない状況で、数年先までの事業計画を立てなければならず、先が見通せない不安があります。

また、外国人が日本でビジネスを行うことに対して、日本人は未だ免疫がないと感じています。事務所の賃貸契約や融資申し込みの際に、外国人であるという事実が障壁となっているように感じたことが多々ありました。

弊社がこのような困難を乗り越えられたのは、福岡貿易会のアドバイザーと出会えたおかげです。アドバイザーに外国人支援に特化した税理士や貿易手続きに関する専門家を紹介していただいたことが大きな助けとなりました。外国人の起業に理解があるパートナーやサポーターを見つけることが、ビジネスを円滑に進める第一歩となります。

持続可能なものづくり

弊社の製品は、安全性だけでなくデザインにもこだわり、人々の生活の質を向上させることを目標としています。

今後のビジネス展開としては、ワックス容器に木製の升を活用した製品を開発し、ドイツ等に販売する予定です。世界的に脱プラスチックへの動きが進む中、特に取組が活発な海外への対応に加えて、升という日本式の容器と、そこに施す和風のイラストが日本ならではの素材・技術のアピールにもなると考えています。

また、熊本県の放置竹林を活用したアプリケータやカッティングボードの試作・製造も進めています。木材の素材が異なるため、今までにない新製品の開発と、地域における放置竹林の問題解決にもつながることを期待しています。

弊社のものづくりは、利用価値があるにも関わらず活用されない木材の活用可能性を見いだし、新たな価値を吹き込むという、「持続可能性」をテーマとしています。弊社の「人々の生活を豊かにするものづくり」が、我々が常日頃から恩恵を受けている「自然環境の保全」につながることを願って、今後も工夫を続けていきます。